JCS/TAWC 受賞者の学会参加報告（AHA2020/ESC2020）

ESC Congress 2020
～The Digital Experience～

三重大学医学部循環器腎臓内科学　水谷花菜（みずたにはな）

この度は，名誉ある第8回 Travel Award for Women Cardiologists（JCS/TAWC）に選出いただき，誠にありがとうございます．

さて，今回 ESC は初めての WEB 開催となりました．8月30日土曜日，普段どおり病棟回診を済ませた後，「よし，早速14時から学会参加するぞ」と意気込んだにもかかわらず Live Session が始まりません．自分の PC が不調なのかと思い試行錯誤するも断念，はたと時差というものを失念していたことに気がつきました．夜再度アクセスし，無事参加することができました．

今回，私が ESC2020で発表され印象に残った臨床研究として ISCHEMIA 試験のサブ解析があります．2019年の AHA で発表された ISHCHMIA 試験は中等度以上の虚血が認められた虚血性心疾患患者において，早期の PCI 治療群は薬物療法群と比較し心血管イベントの低減に寄与しなかったと報告しております．2次救急を担う市中病院で働く私にとって，「PCI をするべきか，否か」という，明日からの自身の治療方針の決定に大きく関わってくるため非常に大きなインパクトがあり，自分のやってきたことが本当に患者さんのためになっていたのかと自問自答しておりました．少ないながら自分の臨床経験で，虚血性心筋症による慢性心不全患者さんにおいては，有意狭窄への PCI 施行を境に再入院が減少することを度々経験し，内服治療に一本化することにはためらいがありました．しかし今回の ESC では，ISCHEMIA 試験のサブ解析は発表され心不全・EF45％未満の患者においては侵襲的治療の恩恵が受けられる可能性が報告されました．やはり心不全のある患者に対しては慎重に PCI の適応を検討していくことが重要であると再認識させられるものでした．

ソーシャルディスタンスという言葉から，COVID-19はいろんな意味で私たち人と人とのつながりを阻む存在だと憎むばかりでしたが，驚くことに今回の ESC 参加者は昨年の3万人から大幅に増加し，8万人を超える世界の人々が最新の知見を学ぶ機会が得られることになりました．さらに，女性の参加登録が33％から45％へ，40歳未満が25％から55％へと増加しました．これは長期間の休みと高額な出費を要する海外出張が難しい地域医療を担う若手医師や子育て世代の医師にたいする“The Digital Experience”の有用性が示されたと思います．当の私も，先日救急外来で対応した患者が新型コロナウイルス濃厚接触者であったことが後日判明し，自宅待機をしている中での ESC 参加となりましたが，学ぶ機会が失われない“The Digital Experience”は素晴らしいと痛感しました．

三重県は縦長かつ，広大な県であり多くの医師が地域医療・救急医療の担い手として活躍する必要があります．そんな中で地域医療の最前線で充実した臨床経験を積みながら日常臨床の疑問を研究によって証明し，アカデミックな刺激が得られるこのような機会を与えてくださった先生方にとても感謝しています．周囲の恵まれた環境に感謝し，この経験を後輩へ伝えていきたいと思います．

選考くださった委員の先生方はじめ，研究の指導をいただいた三重大学の栗田泰郎先生，土肥

薫教授をはじめとする講座の先生方，Mie ACS Registry 症例登録に尽力いただいた先生方，日常臨床の御指導をいただいている鈴鹿中央総合病院の先生方，そして臨床研究に御理解いただいた三重県内の急性冠症候群患者の方々にこの場をお借りして感謝申し上げます．また，私は日本循環器学会主催の「臨床研究デザインと統計解析合宿」で多くのことを学ばせていただき，それが今回の研究に結びついています．御指導頂いた森本剛先生をはじめお世話いただいた諸先生方に感謝の気持ちを表するとともに，今後も引き続きこの素晴らしい合宿が存続し，日本の研究のさらなる発展に寄与されていくことを心より願いながら稿を終えたいと思います．

著者の COI（conflicts of interest）開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし

＊　＊　＊